

耳よりな話

(労働・社会保険ニュース)

N.41 平成 25 年 3 月 27 日発行

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

平成 25 年度の年金はこうなる！

* 年金支給額は昨年と同額

総務省から平成 24 年の全国消費者物価指数が発表され、23 年度に比べ変動率は 0.0% でした。このため、25 年度の年金額は 24 年度と同額となります。

* 特例水準の解消

ところが、これは 4 月から 9 月までの話です。

10 月以降は、先にも説明してきましたが、過去消費者物価指数が下落したにも拘わらず年金支給額を据え置きたいいわゆる特例水準を解消する法案の成立により、年金支給額は 1% 引き下げられます。

この据え置き額は累計で 2.5% となっており、下記スケジュールで解消されます。

- ・平成 25 年 10 月・・・1%
- ・平成 26 年 4 月・・・1%
- ・平成 27 年 4 月・・・0.5%

* 国民年金保険料

1 ヶ月 15,040 円

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。

吟詠

詩吟の愛好者は非常に多く、根強い人気を保持しています。

長年詩吟を愛好し、今や趣味の域を超え吟詠師範(鶴翔流吟詠会宗家代範)として教室での指導にご多忙な毎日を送っておられる江尻 一征(えじり かずのり)さんに、詩吟に関する随筆をお願いしました。

氏は、全国吟詠コンクール、全国合吟コンクール、日本詩吟協会コンクール、ピクチャーコンクールなど各種コンクールに入賞しておられます。

江尻 一征さんは鹿児島県ご出身、昭和 41 年早稲田大学理工学部を卒業後、外資系企業に就職されて内外で活躍したあと起業し、同時に名古屋商科大学の講師として学生の指導にもあたってこられました。

その誠実なお人柄からいろいろな会役員を委嘱されてご活躍の傍ら、囲碁、油絵と多彩なご趣味の他に長年座禅会にも出席されています。小生も江尻さんにご紹介されて座禅会に 3 年間出席し、般若心経、五体投地を学びました。夏の汗が吹き出る座禅、冬の畳の冷たさが沁みる座禅も心地よい思い出です。

以下随筆は長文大作をやや縮小していただきました。

「吟詠に親しむ」

一、「漢文」・「吟詠」との馴れ初め

私が「吟詠」(当時は“詩吟”と言われていた)に初めて接したのは、高校時代であった。

その一つは、クラスの友人の一人がある会に所属しながら、習っていて、あるとき、今おぼろげながら記憶しているのは、野原で、周りに人も見当たらない静かな場所でその吟詠を聞かせてくれたのである。

そのときの吟題は、「不識庵機山を撃つのがに題す」で、「鞭声肅々夜河を過る……」と詠う有名な頼山陽の五言絶句の漢詩であった。その詩の大意は、川中島の戦いを詠った漢詩で、「共に精鋭を誇る甲越両軍三万の日本戦史上類を見ない激戦であったことは良く知られている。武田信玄との決戦を間近に控えた上杉謙信の軍勢は、鞭の音もひっそりと千曲川を渡る。作戦の裏をかかれた甲軍は、突如眼前に現れた越軍の大牙に驚愕、忽ち乱戦となった。時を待つこと十年、宿願を果さんと謙信は、敵陣深く斬り込んだが、剣光一闪惜しくも大敵を逸したのである」(財団法人日本吟剣詩舞解説書から引用)という。

私は、友人が姿勢を正して一生懸命に吟じている様子に感動したことと、もともと声量があり歌が上手な友であり、その節調に心引かれたことを鮮明に記憶している。それ以来「吟詠」は心に残り続けた。

もう一つは、高校二年の頃、必須科目以外に選択科目を受講する事が出来、そのとき、「漢文」を選択したことである。

漢字が並んだ文章には、最初寄り付き難く、何となく馴染まない思いで受講したことを覚えている。

しかし、授業が進むに従い、漢文に魅力を感じ始めてきた。

それ以来、大学は理系を選択したこともあり、「漢文」・「吟詠」とは疎遠になってしまった。

約十年前頃になり、時間的余裕が出来たこともあって、「吟詠」に取り組むことを思い始めた。

たまたま、町田市内に「鶴翔流吟詠会」という会派を探し、入会を決意した。

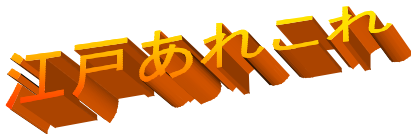
二 .吟詠が生れたことについて

出展：「吟詠・発声の要点」(原案・少壮吟士の皆さん、

監修・舩川利夫)より引用

一方、吟詠が生れた背景に、日本における「邦楽」の中での位置付け、その歴史がある。「邦楽」には、吟詠の他、地唄、箏曲、義太夫、長唄、小唄、端唄などがあるが、特に、日本の音楽の中でも近世に発展した箏、三味線、尺八などの音楽と、それと共に歌われる歌唱芸能の類を指したものである。これは狭義の意味での「邦楽」であり、広義の意味では、洋楽など外国の音楽に対して日本の伝統音楽全体を指している。従って、「吟詠」の位置付けとしては、狭義の「邦楽」の部類に属するといつてよいと言われている。

(以下次号)



トロイ遺跡を発見したことで有名な大富豪のハインリッヒ・シュリーマンがシナ経由で日本を訪れ、将軍家茂上洛の様子を見物したことは「耳よりな話」N. 39にてご紹介しました。

シュリーマンは江戸に行く前の横浜滞在中、絹織物産地として世界的に有名であった八王子を町田経由で訪れた時の手記がありますので一部ご紹介します。

「…われわれは高名な豊顕寺で休息した。寺は針葉樹、椿、シュロなどの美しい木立に囲まれている。寺は木造で、屋根は茅で1メートルの厚さに葺かれている。境内に足を踏み入れるや、私はそこに漲るこのうえない秩序と清潔さに心を打たれた。大理石をふんだんに使い、ごてごてと飾りたてたシナの寺は、きわめて不潔で、しかも頹廢的だったから、嫌悪感しか感じなかったものだが、日本の寺では鄙びたといつてもいいほど簡素な風情ではあるが、秩序が息づき、ねんごろな手入れの跡も窺われ、聖域を訪れるたびに私は大きな喜びをおぼえた。

白い衣を纏った僧侶たちが、われわれのために扉をいそいで開けてくれた。彼らは頭を剃りあげ、素足である。床は美しく磨かれ、白木の天井には彫刻が施されていた。

…どの窓も清潔で、棧には埃ひとつない。障子は裂れ目のない白紙がしわ一つなく張られている。僧侶たちはといえば、老僧も小坊主も親切さとこのうえない清潔さがきわだっていて、無礼、尊大、下劣で汚らしいシナの坊主たちとは好対照をなしている。…われわれは原町田という大

きな村に着き、とある茶屋に一夜の宿を求めた。…家内のどちらを見ても、極端なほど整頓に
気を使うさまが認められる。…」

八王子からの帰途も原町田に一泊しています。

* 中国に遠慮し過ぎて日本を貶める自虐史観報道が強い風潮のなか、約 150 年前の外国人が
日本とシナ（中国）を客観的に見た記述は大変興味深いためご紹介しました。



第一生命が毎年「サラリ - マン川柳
コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

（本件は第一生命様から転載
の承認を得ております）

第十七回第一生命サラリーマン川柳コンクールより

灯り有る 我家帰えれば 消し忘れ

ともしび男

ストレスの 元が君とは 言えぬ僕

まじめ公務員

妻と行く 久々デートは 人間ドック

GTP

携帯の 置き場所忘れ 電話する

意味無いじゃ〜

定年後 犬もいやがる 五度目の散歩

鉄人二八号